

立山砂防の世界文化遺産登録に向けた富山県の最近の取組

富山県土木部砂防課 ○林真一郎 山下勉 安川哲二 小坂慎

※令和5年度の所屬

1. はじめに

富山県及び関係市町は、2007年（平成19年）に「立山・黒部～防災大国日本のモデルー信仰・砂防・発電」を世界文化遺産登録候補として提案し、翌2008年の文化審議会において「世界遺産暫定一覧表候補の文化資産（カテゴリーⅡ）」に位置付けられた。その際、砂防関連資産について「自然災害から暮らしを守り続けてきた人間の営為を刻む諸要素が特定地域に集中する資産として価値は高い」と評価されたものの、「世界的・国際的な観点からの顕著な普遍的価値の証明が不十分」、「国内外の同種資産との比較検討を通じた適切な主題設定や資産構成の検討が重要」、「文化財としての保護が十分でないものは指定等が重要」等の課題が示された。本稿では提案以降継続している立山砂防¹⁾、²⁾の世界文化遺産登録に向けた富山県の最近の取組³⁾を紹介する。

2. 立山砂防の世界文化遺産登録に向けた富山県の最近の取組

富山県では、顕著な普遍的な価値（OUV：Outstanding Universal Value）等に関する調査研究の成果を2014・2015年に報告書としてとりまとめ、立山砂防のOUVを（1）災害が多い国で生まれた防災の総合技術、（2）世界の中で日本の総合的な水系管理技術が、近代における到達点、（3）立山砂防が近代的な防災技術の一つの典型となっていること、としている。また、①顕著な普遍的価値の精査・深化、国際的な認知度・評価の向上、②世界遺産登録に向けた県民意識の醸成、③重要文化財の保存活用、の三つの柱を設け、立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組を進めている。以下に、最近の取組について示す。

2-①. 顕著な普遍的価値の精査・深化、国際的な認知度・評価の向上（図1）

- 立山砂防の顕著な普遍的価値、類似資産との比較に関する継続的な調査研究

（2009年～、2014・2015年報告書とりまとめ）

- 県営砂防施設に関する調査

（直轄砂防以前の富山県による砂防事業1906～1925年、2019年記者発表、52施設の現存確認）

- 国際防災学会インターイベントでの継続的な発表等

（2014年奈良大会以降毎回参加、

2018年富山大会：普遍的な価値を有する立山砂防に関する「富山宣言」）

- イコモス総会でのPR

（2019年モロッコ、2023年オーストラリア）

- ユネスコ本部で開催された企画展への出展（2022年）

- 第3回世界防災フォーラムでの発表（2023年）

- Tateyama Sabo Newsletter 2023のWeb掲載 等



図1 国際的な認知度・評価の向上（左：インターイベント2023（4月、台湾）、右：イコモス総会（9月、オーストラリア））



図2 世界遺産登録に向けた県民意識の醸成（左：全国の集い（6月、約800名参加）、右：国際シンポジウム（10月、約500名参加））



図3 防災危機管理センターの展示

（紹介動画：<https://www.youtube.com/watch?v=tCqoYTVBOCo>）

2-②. 世界遺産登録に向けた県民意識の醸成（図2）

- 国際シンポジウム等の開催（2009～2023年）

- 令和5年度土砂災害防止「全国の集い」in 富山の開催

- ・立山砂防世界遺産登録推進「ユースプログラム」の開催
(対象：高校生・大学生、2013年～；2023年：小・中学生を対象とした親子コースを新設)
- ・富山県防災危機管理センター1階での展示、紹介動画の作成(図3)
- ・アニメーション「立山砂防・土砂との闘い～世界に誇る防災遺産～」の作成
(Youtubeで視聴可、図4)



図4 アニメーション「立山砂防・土砂との闘い～世界に誇る防災遺産～」

(アニメーション：<https://www.youtube.com/watch?v=bPsSDsc5wLA>)

2-③重要文化財の保存活用

- ・「常願寺川砂防施設」の重要文化財指定
(白岩堰堤：2009年指定、泥谷および本宮堰堤を2017年追加し「常願寺川砂防施設」として指定)
- ・日本イコモスの「日本の20世紀遺産20選」に選出
(2017年、常願寺川砂防施設+工事専用軌道)
- ・立山カルデラ砂防博物館の運営、PR活動
(博物館来館者数 2022年度：年間約25,000人)
- ・アバター県庁職員による博物館紹介動画の作成(図5)
- ・立山カルデラ砂防体験学習会
(2022年度：年間約500人、博物館が国土交通省立山砂防事務所の協力を得て開催、日経トレンド誌「死ぬまでに行きたいインフラランキング」第3位、国交省ダイナミック SABO プロジェクトの代表事例、図5)
- ・常願寺川砂防施設の保存活用計画の検討
(立山砂防事務所の検討委員会に委員として参画)



図5 立山カルデラ砂防体験学習会・アバター県庁職員による博物館紹介動画(上：県営砂防施設(西ノ谷堰堤)、下左：六九谷展望台からの蔦崩れ、下右：富山県アバター職員の「立山のぞ夢」「越野ちゆり」による博物館紹介動画)

(博物館紹介動画：<https://www.youtube.com/watch?v=QHqyOsoS28g>)

6. おわりに(今後の課題等)

立山砂防は「防災」という観点から独自性がある文化資産と考えられる。国内候補リストである暫定一覧表への記載を見据えると、ユネスコが定めた作業指針と評価基準に合致する、(1)本質的な「顕著な普遍的価値」の精査とその価値を証明する資産範囲の特定、(2)世界の類似資産との精緻な比較研究、(3)防災機能の保持に欠かせない施設の改修や強化と貴重な文化遺産の保存の両立などの課題がある。2023年度に世界遺産や砂防、土木に関わる専門家を交えたWGを設けたところであり、課題解決に向けた調査研究の方針や内容を検討した上で着実に取組を進めたいと考えている。立山砂防は2026年(令和8年)に直轄事業100周年(県営砂防120周年)を迎える。この機会にさらに県民や国内外の理解・関心を一層高めることが大変重要であり、引き続き、関係者の協力を得て、積極的な情報発信等の取組を行って参りたい。

参考文献

- 1) 富山県砂防課 HP「立山砂防の世界遺産登録を目指して」 <https://www.pref.toyama.jp/1505/bousaianzen/bousai/dosha/kj00020435/index.html>
- 2) とやまの文化遺産「立山砂防施設群」 <https://toyama-bunkaisan.jp/pickup/candidate01.php>
- 3) Ichii *et al.*, (Accepted) Recent challenges to the registration of Tateyama Sabo as a world cultural heritage site, Proceedings of INTERPREAVENT2024